
月と二人と

七色 鈴音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月と二人と

【Nコード】

N6505E

【作者名】

七色 鈴音

【あらすじ】

月の下の別荘で小説家とその担当者、そんな二人がする会話

「月が綺麗だねえ。」

「……そうですね。」

日本家屋。

そう表現するのがぴったりな別荘の縁側で、私は彼と月を眺めていた。

「でも魁さん。」

「ん？」

「月ってというのは自ら輝いているわけではありませんよ？太陽の光を反射しているだけです。」

「そんなこと知ってるよ。ロマンがないね、理系は。」

「お褒めにあずかり光栄の至りですよ、文系。」

もう夏だというのに山の夜は涼しく、電気を消して月と星々の明かりを楽しんでいた。

今夜は三日月が夜空に浮かんでいる。

「ねえ。」

彼が私を呼ぶ。

こういう時、私は嫌でも返事をしなければならぬ。

今、彼の機嫌を損ねるわけにはいかないのだ。

「どうしたんですか、魁さん。」

「真月ちゃんって恋人とかいるの？」

「セクハラで訴えますよ？」

それはたまらないな、と言って彼は笑い、私は溜め息を吐いた。

彼は上司じゃないので、正確にはセクハラではないのだけど。

「何でいつもいつも勝手に行動されるんですか？私がどれだけ苦労してるか分かってます？」

「君のために行動してるんだよ。しかも、ちゃんと置き手紙を置いてたろう?」

「場所の範囲が広すぎです。中部地方に、貴方は何軒の別荘を持っているんですか。」

「悪かったよ。」

悪びれる風もなく、ただ言葉だけを並べ、彼は寝転がった。

「あゝあ。星になりたいなあ。」

「死んだら誰でも星になれます。手伝いましょうか?」

「いや、冗談だから。金槌なんていららないから。ってかそれどころか持って来たの?」

「何処つて……家に決まってるじゃないですか。」

「始めから殺す気!?!」

私は振り上げた金槌を投げ捨てた。もともと偽物だし。

「あーあ、つまらないなあ。」

「いい歳した大人がいう台詞じゃないね。」

「心はいつまでも少女です。」

「身長もだよ、149cmしかないし。」

「ほっとけ。」

「きゃー!真月ちゃん怖いっ!」

私は二度目の溜め息を吐いた。

彼は楽しそうに頬を緩ませている。

身長はコンプレックスだったのに……。

ふと、彼の手が私の長い髪にいく。

「真月ちゃんつて髪、綺麗だよな。」

指を絡ませて遊び、私の髪に軽くキスをした。

上目遣いでこちらを挑発するように見る。

私は彼の胸に手を置いて、彼の顔に自分の顔を近付ける。

二人の距離は、数cm。

「ねえ、魁さん。」

「ん？」

彼は余裕たっぷりに微笑んだ。

「早く原稿書いて下さい。」

「もうちょい待って。」

「だめ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6505e/>

月と二人と

2010年11月19日08時13分発行